

大川竹あかり



震災後14年 今年で4回目(2022年～)

11年後から
始まったん
だよね。



より様々な立場の人の参加

大川のことは気になるが、どう関わればいいのか分からない
～竹あかりに参加し、新たなつながりが生まれている。

作品として鑑賞

～なかなか足を運べなかった人が「きれいだから見に来る」

～震災間もない頃はそれでも無理だった

2011年から育ってきたものがある

伝承・復興はじっくり育てていくもの、**時間も必要**。

同時に、**時間との闘い**でもあります。
悠長なことを言ってる場合かと。

フェーズをふまえた環境づくりを

補助金の主な使途

- ・工具・材料・配線関係
- ・その他諸経費
(事務・通信・設備管理等)

SNS等でも報告

～多くの人の共通認識にしたい

- ・これぐらい経費が必要
- ・これぐらいでできる



「大川竹あかりの記録と津波の災害史」

く伝え続けたい

館長からの言葉ー

行った気仙沼・本吉地域の調査
の資料約500点を展示してい
とを重視し、「大津波は必ず
越えて伝えることが私たちの
える形にしてイメージさせ
揮できるとしています。

大川竹あかり [2022年～]
石巻市震災遺構 大川小学校(石巻市)



竹あかりを通じて 命の大切さを考える機会に

ー一般社団法人大川竹あかり 代表理事からの言葉ー

震災遺構大川小学校では、犠牲になった児童の遺族や住民らが中心とな
て毎年3月11日に竹あかりを灯す追悼行事「大川竹あかり」を行っています。
県内外から大勢のボランティアが集まり、制作作業や、当日のあかりの灯っ
た空間での交流を通して、ふだん意識することのない「命の大切さ・繋がり、
大切な人の命」を考え、震災の記憶を広く伝えていきます。

A Fisherman | 漁師

〔関西ペイント塗料/750×660cm/2022年〕
やすい たかのすけ
安井 鷹之介(1993年～)

灰色の防潮堤をアート
ー海岸線の美術

震災後



共徳丸と海
〔水彩、紙/540×1640cm/2018年〕
加川 広重(1976年～)

防災
これからも伝え
続けて行きま